

青山学院大学

音楽史A（2006年度前期）（2006.06.20.配布）

## 今後の授業と補講について

今後、正規の時間に授業が行われるのは、本日=6月20日、7月4日の2回です。（以前から予告しているように6月27日は休講になります。）

これに加え、1回の補講を行います。日程は未確定ですが、当方としては、7月11日（火）に1回分の補講をすることを希望しています。最終的に決定した日程は、学務課から発表されます。

補講期間中の授業は、欠席をしても不利な扱いはしませんし、レポートの内容も、補講に参加しなくてもレポートが書けるような課題を出します。

## レポートについて

この科目の評価は、レポートの成績に、出席状況を加味して評価します。したがって、出席状況が芳ばしくないものであっても、レポートが優れていれば、単位が付与されることがあり得ますし、逆に、出席状況がよくても、レポートが貧弱であれば、単位が与えられないこともあり得ます。

以下に示す指示は、厳守してください。以下の指示に従わない場合、大幅に減点することや、レポート未提出として単位を付与しないことがあり得ます。

レポートは

- ・必須レポート
- ・選択レポート
- ・選択レポートに関する感想

から成っています。選択レポートは、課題A～Cのうち1題を選んでください。

レポートの表紙には、学生番号、氏名等とともに、選択レポート課題として選んだA～Cいずれかの記号を明記してください。

必須レポートの分量は概ね800字相当以上、選択レポートの分量は概ね3000字相当以上を期待しています。しかし、内容が充実していれば、これより少ない分量でも構いません。分量の上限は設けません。

さらに、選択レポート本体とは別に、選択レポートに関する感想を、概ね200字～400字程度にまとめてください。これは独立した課題です。

必須レポート、選択レポート、および、選択レポートに関する感想は、ワープロ等を利用して印字するか、インクで清書したものを提出してください。印字する場合は、A4判たて位置の白紙に印字してください。読みやすくなるようレイアウト等に配慮がされていることを前提に、一枚の用紙に印字する字数や、レイアウトは特に制限しません。手書きで清書する場合は、A4判横書きの400字詰原稿用紙を用いてください。

レポート本体と感想は、ステープラー、2穴式フォルダー、綴じ紐、等の適切な方法で「必須レポート→選択レポート→選択レポートに関する感想」の順に綴じて提出してください。

レポートの提出は、7月18日（火）～20日（木）に教務課で受け付けるはずですが、

ただし、必ず公式の掲示板で確認をして下さい。万一、この日程と異なる日程が適用され、このメモに基づいて行動して不利益を受けたとして、授業担当者（山田）は責任をとれません。

なお、万一の事故に備えて、レポートのコピーを手元に控えておいてください。デジタル・データを保存しておくという形でもかまいません。レポート提出後、万一事故があった場合には、レポートの再提出を求めることがあります。

---

必須レポート：概ね800字相当以上：

授業を受講し、印象に残った点について感想を述べてください。特に、授業をきっかけに自分で考えた内容や、授業に対して感じた疑問については、できるだけ具体的に述べること。

---

選択レポート：概ね3000字相当以上：

(A)

東谷護・編(2003)『ポピュラー音楽へのまなざし』勁草書房 所収の論文のうち、第2章と第3章を読み、そこで展開されているレコード会社など「音楽を売る側」の議論を踏まえて、音楽を聴く者の立場から「音楽の商品化」と「音楽のネット配信の可能性」について論じてください。

当然ながら、必要に応じて授業中に講じた内容(第1章)や、生明俊雄(2004)『ポピュラー音楽は誰が作るのか』など、他の参考文献や、ネット上にある各種のサイト等を参照し、それらに言及しながら議論を展開することが期待されます。

(B)

6月13日以降の授業で言及された人物(授業時に氏名が板書された人物)を一人選び、その人物の伝記など、その人物に関連する本を(できれば複数)読んで、その内容を紹介する書評を書いてください。最も望ましいのは、2冊以上の伝記が存在する人物を選ぶことですが、伝記1冊と少しでも関連する記述のある一般的な書物1冊、あるいは伝記1冊と関連するウェブサイトといった組み合わせでもよいこととします。

念のためですが、単なる読書感想文を求めているはありません。書評ですから、必ず、内容の要約と、自分の立場から見た意見、論評を盛り込んでください。

なお、レポートの最初に、取り上げた書物の詳しい書誌を明記してください。

(C)

1960年(昭和35年)以前に生まれた人(複数でもよい)にインタビューして、ポピュラー音楽を中心に、その人がどんな音楽体験をしていたか、できるだけ詳しく聞き取りをして報告してください。ここでいう音楽体験には、音楽を聞いたり、歌ったり、楽器を演奏したりといったことすべてを含みます。

その際、特に「ジャズ」については、どのように接する機会があったのか、何を聴いていた(演奏していた)のかなどを、特に詳しく話してもらうこと。

この課題を選んだ場合は、レポートの最初に、対象者の氏名、生年、報告者との関係、その他対象者の簡単なプロフィールと、インタビューを行なっ

た日付、場所（複数回の場合はすべて）を明記してください。また、実際にインタビューをしたか確認するために、担当教員（山田）から連絡をとる可能性があることを対象者に告げ、許可を得た上で、対象者が都合のよい連絡手段（電話番号、メールアドレス、郵便送付先住所、のいずれか一つ以上）もレポートの最初に明記するようにして下さい。（対象者から、山田に連絡先を知らせることについての了解が得られない場合、この課題は選択できません。）

---

選択レポートに関する感想：概ね200字～400字程度：

課題A～Cの選択理由を説明した上で、レポートを書いた感想を述べてください。

---

以上、いずれのレポート・感想についても、引用・参照文献（ウェブページを含む）は書誌（URLなど）をきちんと記すこと。

引用範囲や出典を明示せずに他人の文章を切り貼りしてレポートに組み込むのは、盗用であり、剽窃行為です。このような行為が判明した場合は厳格な対応をとります。

なお、この点については、**2003年度の音楽史Bのレポート**について述べた見解をご参照ください。

<http://camp.ff.tku.ac.jp/YAMADA-KEN/Y-KEN/ex-files/notice03.html#03AA>

---

レポートに関する質問は、「青山学院 音楽史A」という表題のメールにして、できるだけ早めに [yamada@tku.ac.jp](mailto:yamada@tku.ac.jp) まで送って下さい。